

人工授精 (IUI) 説明書・同意書

人工授精とは、予測した排卵日に精子を子宮内に注入する治療法であり、外国では子宮内精子注入法 (IUI) と呼ばれています。卵管内の卵管膨大部で精子と卵子が出会い受精が成立しますが、精子が卵管膨大部に到達するためには長い距離を移動する必要があります。この距離を短くしようという方法が IUI です。体外受精 (卵子と精子を体外で受精させる) とは全く異なります。

1 以下の場合に治療として IUI が行われます。

- 1) 精子が少ないまたは運動率が低いため、自然の性交では受精に必要な数の精子が卵管膨大部に達しないと考えられる場合
- 2) 精子は正常でも、フナーテストが不良で、十分な精子が子宮に入らない場合
(フナーテストが不良である原因として、抗精子抗体やピロリ菌抗体などの原因が除外された方)
- 3) 膣内射精できない場合
- 4) 性交できない場合
- 5) 凍結精子を用いる場合 (男性の多忙や長期出張など)
- 6) タイミング治療にて妊娠に至らない場合

2 IUI の方法

- 1) 予測排卵日当日に精液を採取していただきます (射精後 2 時間以内に持参して下さい)
- 2) 精液から運動良好な精子を洗浄濃縮します (精子調整に約 1 時間を要します)
- 3) 洗浄濃縮した精子をやわらかく細いチューブで子宮内に注入します

3 精子の調整について

IUI の目標は運動良好な多数の精子を子宮内に注入することであり、精液より運動精子を分離濃縮する必要性が生じます。また、射精された精液中には精子以外に細菌やプロスタグランディン (子宮を収縮させる痛みの物質) が含まれていることがあり、精液そのものを注入することは細菌感染や下腹痛などの副作用をもたらすこととなります。このことから、精子を分離する必要があります。当院妊娠のデータから、調整後の運動精子濃度が $0.5 \times 10^6 / \text{mL}$ 以上の場合に実施し、 $0.5 \times 10^6 / \text{mL}$ 未満の場合はキャンセルします。

4 IUI の成功率 (生産率) について

女性の年齢によって妊娠率が低下します。累積妊娠率は、35 歳以下 6 回で 50%、36～37 歳 4 回で 22%、38～39 歳 2 回で 12%、40～42 歳 1 回で 4% です。それ以上 IUI を行っても累積妊娠率は頭打ちになりますので、この回数を行って妊娠しない場合には、体外受精 (IVF-ET) を考慮します。

5 副作用、リスク

自然妊娠の場合と同様に、多胎妊娠や子宮外妊娠を防ぐ事はできません。排卵誘発剤を用いた場合には、卵巣過剰刺激症候群になる可能性をゼロにすることはできません。感染防止の対策として、抗生物質を添加した培養液で実施しますが、稀に骨盤腹膜炎を生じることがあります。

6 この同意書は、今回の IUI 用です。 今回の治療後に、再び同じ治療を希望する場合、その都度同意書の提出が必要です。また、同意書は必ず直筆で記入をお願いします。

リプロダクションクリニック 理事長 石川 智基

患者記入欄

精液持参の場合は、パートナーの精液であることを誓約します。

「人工授精 (IUI)」に 同意します 同意しません

夫 ID _____ 夫署名 (直筆) _____ 同意年月日: 20 ____ / ____ / ____

妻 ID _____ 妻署名 (直筆) _____ 同意年月日: 20 ____ / ____ / ____

住所 _____

必ずご本人がそれぞれ直筆でご署名下さい。筆跡に疑いがある場合、受理しないことがあります。

ご本人以外の方が署名された場合、有印私文書偽造となり刑事罰をうけることがあります。

同意日から半年間を有効期間とします。

フリクション等、**改変可能なペンでの記載は受理いたしません** (書き直していただきます)。